

平成22年度 第7回がまごおり協働まちづくり会議 会議録

日 時 平成23年 3月17日 (木)

15時00分～

場 所 蒲郡市役所 新館5階 庁議室

参加者：和泉会長、金子副会長、山本喜是委員、山本久代委員、水野委員、榎本委員、小林浩子委員、尾崎委員、小林憲三委員
(事務局) 竹内、小山、石川、森

1 開会

(事務局)

本日3月議会が終わりました。まちづくり助成金とモデル事業と提案事業を無事に承認されました。

2 議題

1) 助成金について

助成金報告会の様子の説明

(事務局)

～助成金報告会の様子と獲得団体の報告の抜粋～

(会長)

愛知工科大学の会場はとてもいい雰囲気だった。来年度以降、地域貢献として考えてくれれば貸し出してくれるだろう。

(事務局)

今年度、助成金を獲得した団体で来年度以降の状況は？

(事務局)

G♡Childは22年度については助成金ありきの活動だった。23年度は予算の事も踏まえながら学生たちに活動してスキルアップをしてほしい事から応募をされていない。

(副会長)

いずれも継続ということで話を聞いている。

(事務局)

事業の継続性が審査の観点だったので22年度だけではどうかと思った。ごみクラブについては？

(事務局)

こちら継続で、より一層頑張っていくとのことだった。

(副会長)

助成金をもらって必死でやってきて、大きく変わってきた、どこかで振り替える時間をつくりたいという団体もあった。助成金にエントリーすることによってケーブルテレビや新聞に取り上げられ、値がつき始める瞬間なのかと思う。

(会長)

いろいろなところで活動が認められるというのはよいこと非常に良いことだと思う。出番を作ってくことがほかの団体が応募してみようという刺激にもなるのでセンターの役目だと思う。

センターでの助成金申請の相談回数応募状況について
(事務局)

～助成金を申請するためにセンターに訪れた団体の回数についての説明～
助成金相談の中で支出をどこまで書くのかという質問が多くあり、経費費目一覧があれば、分類記入がしやすいのではと感じている。

(会長)

9回来ている団体はなぜ多いのか？

(事務局)

話すたびに、やりたいことが大きく膨らんでしまったことや申請用紙に書いてほしい部分を書ききれなかったため

(副会長)

申請まではいかないと思っていたが、相談をする方、受ける方、両者の頑張りがあり、申請することができたと思う。はじめて助成金にかかわった人の象徴的な例だと思う（和泉会長）

やりたいことを交通整理する人が必要ですね。9回来た人こそ、ほとぼしる情熱だと思います

ほとぼしる情熱支援部門助成金審査結果とアンケートについて

(事務局)

～平成23年度助成金獲得団体の概要とアンケート結果について説明～

(会長)

P D C A サイクルでかんがえれば報告会や審査会でもアンケートを取ってチェックをする必要があるので今後してほしい。アンケートにもあるように、会場の意見をどう取り入れるかが今後の課題だと思う。

(委員)

獲得できなかった団体でアンケートの点数の高い団体をどうサポートしていくのかが重要、申請団体で会員数の少ない団体が個でやっていたものが、どう発展していくのか、どういう風にかわっていくのか、モデル的に見ていくチャンスかと思う。

(委員)

会場の公正感をどうしたらよいのか

(委員)

一緒になって審査をして連帯感が生まれるので良いと思うので何かの形でとりいれればよいと思う。

(委員)

一般審査をとり入れることは良いと思う。

(委員)

5年前と比べて、レベルが違う。蒲郡が誇れる宝だと思う。

(委員)

市民がいかに参加できればいいと思う

(委員)

前年度に比べて幅が広がったと思う。落ちたところももったいないので、うまくフォローをして今後につなげてほしい

(副会長)

審査会は協働フォーラムを超える中身を持っている。みなさんに見てもらって、自分達の活動に上手く転換してほしいので声をかけたが、エントリーしてなかった団体は「えっ」と言われて、あまり呼べなかった。

アンケートで市民活動や企業、地域の役の人以外がこの会場に来ていることが分かった。その人たちが、まちづくりにかかわるきっかけに審査会がなればと思う。蒲郡に愛着をもつ瞬間を作っていると助成金でできたらと思う。

(会長)

今後、いろいろな手立てを考えてPRしていかなければならない。会場審査を取り入れるかどうかは次回以降の課題とし、全国の情報を集めてほしい

はじめの一步部門の審査結果について

(事務局)

はじめの一步部門の審査結果と獲得団体の概要説明

蒲郡市アルプス協議会については団体発足1年目ということで、他の山で活躍する団体と調整をして活動をするために団体の認知度を高めることが必要であるので、今回は看板製作を除外し、減額を行った

(委員)

ヒアリングをして市民サイドと行政サイドのギャップがあることを感じた。そういったことをどう伝えていくのか検討する必要がある。

(委員)

はじめの一步らしい活動なので、今後、ほとぼしるにどう移行させていくのが課題

(事務局)

面接時間10分が短く思う。行政としては申請を受け付けている以上、後から除外するというのが難しい。行政マンは1名の方が公平性を保てるのではないのか？

(会長)

書類だけでなく、面と向かって話すことが重要。よりよい活動にしてもらうためにも、人や時間を増やすことも検討したい。

今後のスケジュールについて

(事務局)

3/30の18:30から助成金獲得団体の第1回情報交換会を行う予定である。請求書の提出と、団体の活動内容を話してもらう予定。

後期募集50万円をかける予定だが、前回までの会議で時期を6月として実施していく予定なので次の会議で詳細を話したい。

企画広報課としてシティープロモーションとしてケーブルテレビで蒲郡市を紹介していくコーナーがある。そのなかで市民団体の活躍を隔月3分間放送する。情報交換会に取材に来てもらい、今後はセンターや助成団体の活動についても取材してほしいと思っている。

(会長)

次回は後期募集のヒアリングの状況をどうするかを含めて日程等、検討したいと思います。

2) 食育プロジェクトについて

(委員)

食育プロジェクト開発事業のニギスせんべいの試食と、そのアンケート結果の報告。今日の午前中に業者に行って実際に作ってくれるのかお願いをしてきた。

(会長)

幼児のおやつか、観光土産として考えるかでかわってくる。業者も手広く考えているので今のままでは足りないのかもしれないが食育としては良いと思う

(委員)

作る場所は蒲郡でなければならないのか？豊川でも、せんべいを作っている施設を知っている。小さい子にはせんべいの大きさが割って食べないといけないので大きいのではないのか？

(委員)

今回はモデル事業というところで市内業者に限定をした

(会長)

モデル事業としてではなく食育事業でするときは考慮しましょう

(委員)

見た目が、子供が食べたいとは思えない。給食のようにでてきたら、食べると思う。子供はかじることが大切なので大きいほうが良いと思う

(委員)

子ども向けならば、素材が見えるとインパクトがあるが、他にも香りの部分でインパクトが出せないか？

(副会長)

行政が話を持っていったら、違う話になっていたかもしれない。食育プロジェクトで一番感動しているのは実際に子供達が食べているシーン。どうやって職人たちを子供たちのところへつれていったらよいのか戦略を練っているところだ。

(委員)

来年度にはニギスせんべいを出せるように業者に作ってもらい提供できるようにしたい。

(会長)

次回の会議では来年1年の企画をお願いします。

3. その他

(事務局)

蒲郡市みなとまちづくり推進事業助成金が来年度から始まる予定。minto ファンドからの助成があり、23年度からハード部分に限り助成を公募で行う。

次回開催は4月15日13:30～